

災害に備える

○いつ来るかわからない地震

今年の元日には能登半島で大地震が発生し、去る8月8日には、宮崎県東部沖合の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。

この地震については、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことは記憶に新しいところです。

私たちの住む金ケ崎町は、東日本大震災などにおいても、大きな被害もなく過ぎてきましたが、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が発生した場合には、震度6弱以上の震度が発生することが見込まれ、国から防災対策推進地域に指定されています。国の機関が公表しているデータによれば、岩手県沖南部で震度7から7.5程度の地震の発生確率は、30年以内に30%程度と高まっていると発表がされています。当町は津波の影響は受けませんが、大規模な地震への日頃からの備えが大切になってきます。

我が家の防災対策を再確認しませんか

～災害に備えた家庭での準備～

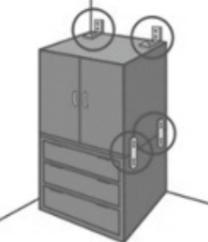
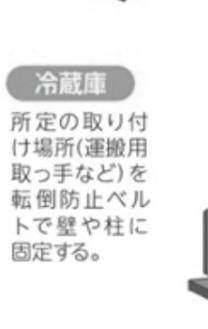
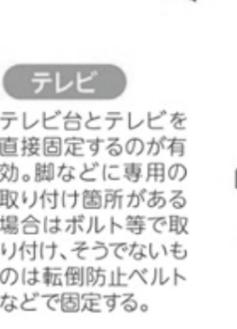
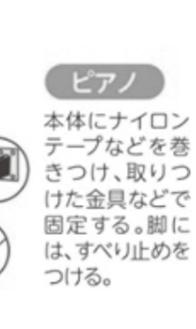
東京消防庁の調査によると、近年発生した地震でけがをした人のうち、家具の転倒・落下が原因だった割合は3～5割を占めています。家具の転倒・落下は、避難経路をふさいでいざというときの避難が遅れることにもつながります。大型の家具をしっかり固定したり、家具の配置を工夫したりして安全安心なわが家を作りましょう。

詳しくは「わが家の安全対策チェックシート」をご確認ください。

地震のほか、水害や金ケ崎町防災マップの見方など出前講座を行っています。自治会やグループなどで出前講座をご利用ください。実施日時や内容についても相談に応じておりますので、お気軽にご相談ください。

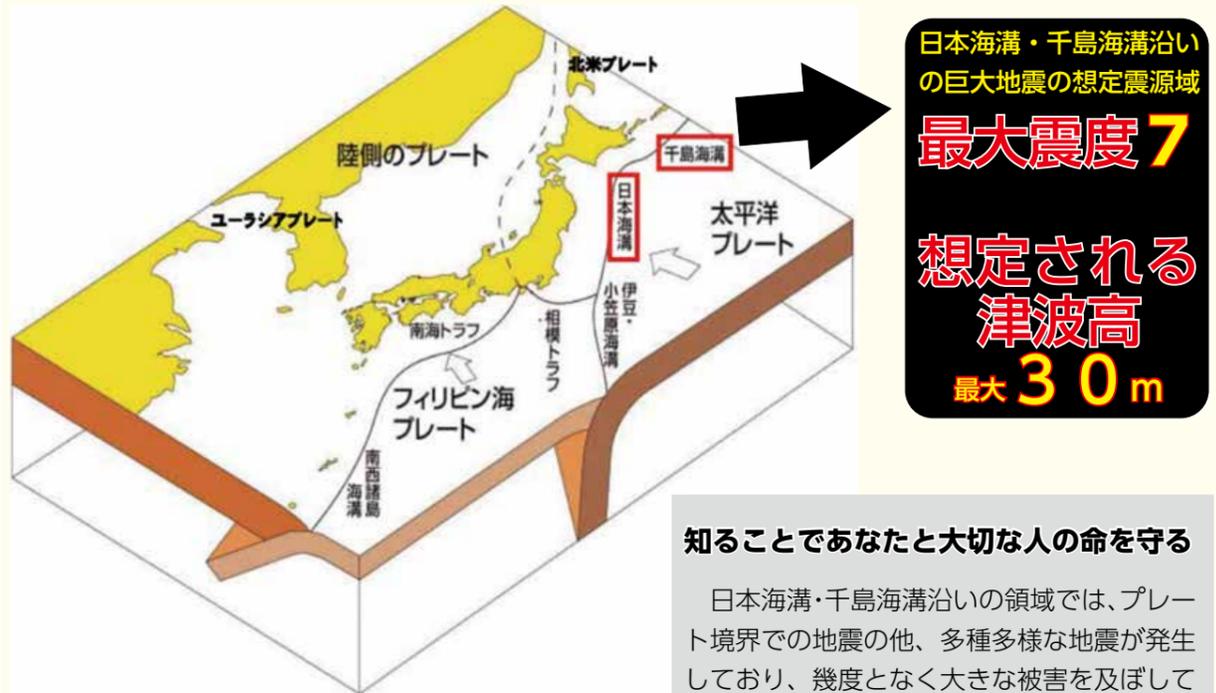
☎ 生活環境課防災係 (内線 2131)

家具の転倒、落下を防ぐポイント ●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

<p>タンス・本棚</p> <p>L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。</p> 	<p>食器棚</p> <p>L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。</p> 	<p>照明</p> <p>チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。</p> 
<p>冷蔵庫</p> <p>所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。</p> 	<p>テレビ</p> <p>テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。</p> 	<p>ピアノ</p> <p>本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。</p> 

○わが家の安全対策チェックシート

- ☑️ **チェック1 □ 安全な部屋をつくる**
寝室や子供部屋にはできるだけ家具を置かない、または、低い家具に変える。家具を置く場合は、寝ている人に直接倒れてこないように配置し、倒れた家具で出入口をふさがないように配置する。
- ☑️ **チェック2 □ 避難路を確保する**
玄関などの出入り口につながる通路には倒れやすい家具や落下しそうな物を置かない。
- ☑️ **チェック3 □ 家具や家財などの転倒を防ぐ**
タンスや食器棚、冷蔵庫の転倒を防ぐためL型の金具などを使って柱や壁に固定する。上図を参考にご検討ください。
- ☑️ **チェック4 □ 手の届くところに防災品を備える**
夜間就寝時の停電や地震によるガラスが散乱することがあるため、懐中電灯やスリッパなどを手の届くところに置く。



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域

最大震度7

想定される津波高

最大30m

知ることあなたと大切な人の命を守る

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、プレート境界での地震の他、多種多様な地震が発生しており、幾度となく大きな被害を及ぼしてきました。日頃から突発的に発生し得る地震への備えを徹底し、「北海道・三陸沖後発地震注意報」が発信されたら続いて発生しうる地震にも備えましょう。

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震とは

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、房総半島東方沖から三陸海岸の東方沖を経て択捉島の東方沖までの日本海溝と千島海溝の地殻の境界等を震源とする地震です。

この地震による建物被害は、積雪により建物の被害が増え、出火のおそれが高まる「冬の夕方」が被害が最も大きくなると推計され、日本海溝で約22万棟、千島海溝で約8万4千棟にのぼります。

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、一度マグニチュード7クラス以上の地震が発生した後、続いて大きな地震(後発地震)が発生した事例があります。実際に後発地震が発生する確率は低いものの、発生した場合に一人でも多くの命を救うため、想定震源域及びその周辺でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合には、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信されます。